# プラトンの正義論をめぐる 欧文総合研究

慶應義塾大学 文学部 教授

#### 信留 納富



## 研究の背景

ギリシアの哲学者プラトン(前5-4世紀)の主著『ポ リテイア』(『国家』)は、西洋哲学でもっとも重要な哲 学書とされる、人類の古典です。しかし、この著作をめ ぐっては、政治学の書物として読むべきか否か、また、 全体主義の起源となる危険思想かどうかが、20世紀後 半から活発に議論されてきました。私たちは数年にわ たって集中的に研究を重ね、2010年8月に国際プラト ン学会大会「第9回プラトン・シンポジウム」(慶應義 塾大学三田キャンパス)を開催、世界の研究者たちとこ の著作を主題に最先端の議論を行いました。本研究では その成果をまとめ、英語での研究を発展させることを目 指して、『ポリテイア』が論じる「正義」と「自由」の 理念を検討しています。

# 研究の成果

研究メンバーによる積極的な海外での発表、外国人研 究者によるセミナー・講演会に加えて、2つの国際学会 が重要な成果となっています。2012年8月、オックス フォード大学で開催した学会「自由と国家」でイギリス の学者たちと議論し、2014年4月、慶應義塾大学日吉 キャンパスでの国際シンポジウム「プラトンとレトリッ ク」では、アジアや欧米からの若手研究者たちと議論を 深めました。そして、『ポリテイア』を市民の自律と自 由を確立する「正義論」として読むことを、広く問いか けてきました。

その成果は論文集 Dialogues on Plato's Politeia



国際学会「プラトンとレトリック」基調講演:金南斗教授(韓国)

(Republic) (Academia Verlag, 2013) の編集や、 多くの英語論文、そして拙著『プラトン 理想国の現在』 (慶應義塾大学出版会、2012年)にまとめられています。 そこでは、プラトンの「理想国」論が明治以降の日本で 大きな影響力をもち、日本の近代哲学の基礎となってき た有様を明らかにしました。その歴史を改めて見つめ直 すことで、世界に発信する日本のプラトン正義論を研究 しつづけています。

## 今後の展望

これまでの研究は、さらに大きな射程で国内外との共 同研究につながっていくはずです。とりわけ、本研究が 明らかにしつつある近代日本のプラトン哲学の受容につ いては、中国や韓国などアジアの研究者の間でも関心が 広がっています。ここから21世紀のあらたな哲学対話 が始まることを期待しています。世界中で読まれてきた プラトンの主著を人類の共有遺産として読み直し、日本 が先導する人間の共生哲学へと発展させること、それが 本研究の目標です。

# 関連する科研費

平成20-22年度 基盤研究(B)「古代ギリシア 正義論の欧文総合研究ープラトン『国家』とその伝 統一」

平成23-27年度 基盤研究(B)「プラトン正義 論の解釈と受容に関する欧文包括研究」

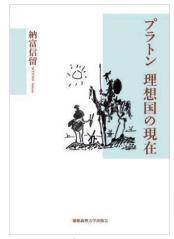


図2 納富信留『プラトン 理想国の現在』